

ステップ1

クラウド・サーバをつくる

中本 伸一

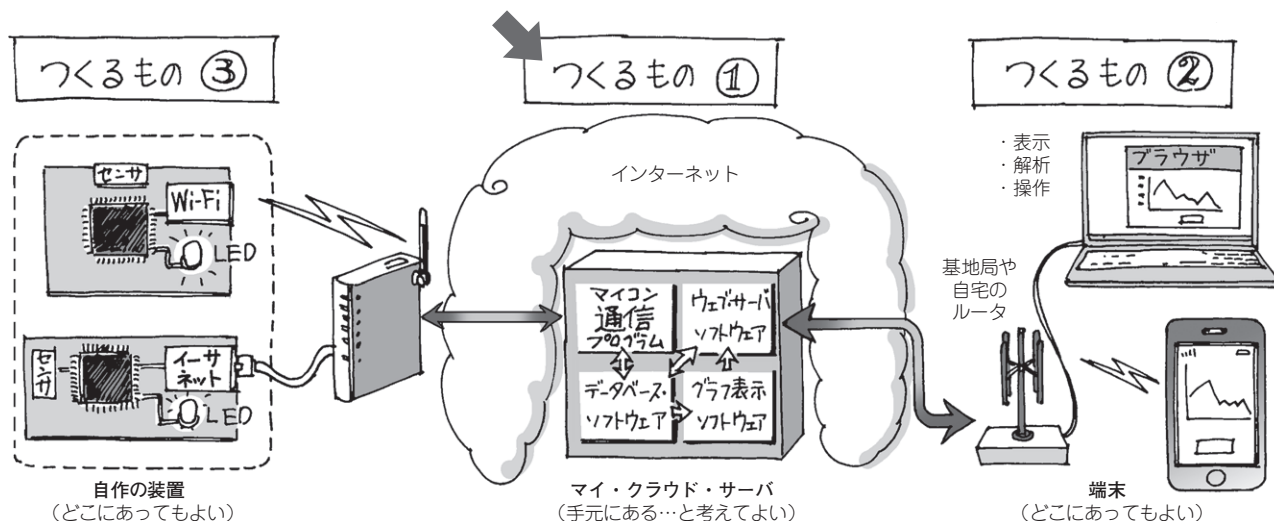


図1 「どこでもI/O」に必要なもの

本稿では、マイ・クラウド・サーバをつくってみる

本稿では「どこでもI/O」に欠かせないマイ・クラウド・サーバを立ち上げてみます(図1)。クラウド・サーバにはアマゾンの「Elastic Compute Cloud (EC2)」を使います。本クラウド・サーバはキャンペーンを行っていて、1年間は基本使用料が無料で使えます(2012年11月執筆時点)。正規使用料金を払ったとしても安価に済ませられますし、それだけでなくビギナでも使いやすい機能がいくつか備えられており、マイコン・プログラマがちょっと「どこでもI/O」を試すには最適です。

ステップ・バイ・ステップでじっくり作業すれば、自分専用のサーバを、インターネット上に構築できます。

ビギナ向け! アマゾンのクラウド・サーバEC2

クラウド・サーバにはさまざまな種類があります。業務向けのサービスが多く、それらは料金がかなり高価です。その中で、唯一(2012年11月執筆時点)無料で利用できる

クラウド・サービスが、アマゾンのAWS (Amazon Web Services) です。

AWSは多くのサービスを統合したものですが、正直いってサービスの数が多すぎて、かなり難解です。数あるAWSのサービスの中から、今回はインターネット上にサーバを構築できるEC2 (Elastic Compute Cloud) だけを扱います。

アマゾンEC2の特徴は次の通りです。

● なんと! 基本使用料が1年間は無料

EC2は、新規にユーザ登録した日から、1年間は無料で利用できます。ただし無制限に無料というわけではありません。利用するサーバは、性能やディスク容量などが最も低いグレードのものに限定されます。最も低いグレードであっても、性能は1.2 GHz Opteron プロセッサとほぼ同等なので、十分に実用的に使えます。

無料期間が終了するまでに利用したクラウド・サーバを消去すれば、課金される心配はありません。もしEC2が気